

食道アカラシアに対する内視鏡治療

(Per-Oral Endoscopic Myotomy : POEM)

食道アカラシアとは・・・

食道アカラシアと食道アカラシア類縁疾患は食道の運動機能障害の一種であり、食道と胃の接合部が弛緩しない、または強く収縮していること、食道体部に異常な運動が出現することにより、食事が食道から胃内へ通過せず食道内に滞留する疾患です。食道の筋肉を支配している神経の変性などが原因と考えられていますが、なぜ神経の変性が起きるのかは未だわかっておりません。

現在は 日本では人口10 万人あたり 7 人の頻度で患者さんがいるといわれおり、近畿2府4県では1400 人ほど患者さんがいらっしやると推定されます。

基本的にこの病気により命を落とすことはありませんが、食事が十分とれないことで生活の質が落ちてしまいます。また、食道アカラシアは食道癌を発症しやすいと言われています。

食道アカラシアの症状

胸のつかえ感 食事摂取困難 夜間の嘔吐 胸痛 体重減少 誤嚥性肺炎など

食道アカラシアの診断

① 食道透視検査

食道透視検査（バリウム）を行うと、食道の拡張や食道胃接合部の狭窄が見られます。

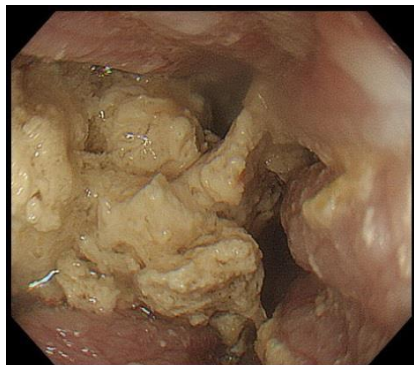


拡張した食道

狭窄

② 上部消化管内視鏡検査

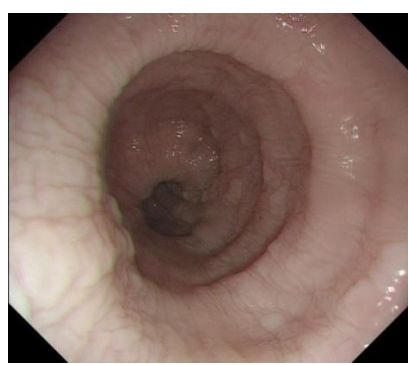
典型的には食道内腔の拡張や食物残渣や液体の貯留、食道粘膜の性状の変化、食道胃接合部の機能的狭窄が見られます。また食道の異常な収縮運動が見られることもあります。



食道内の残渣



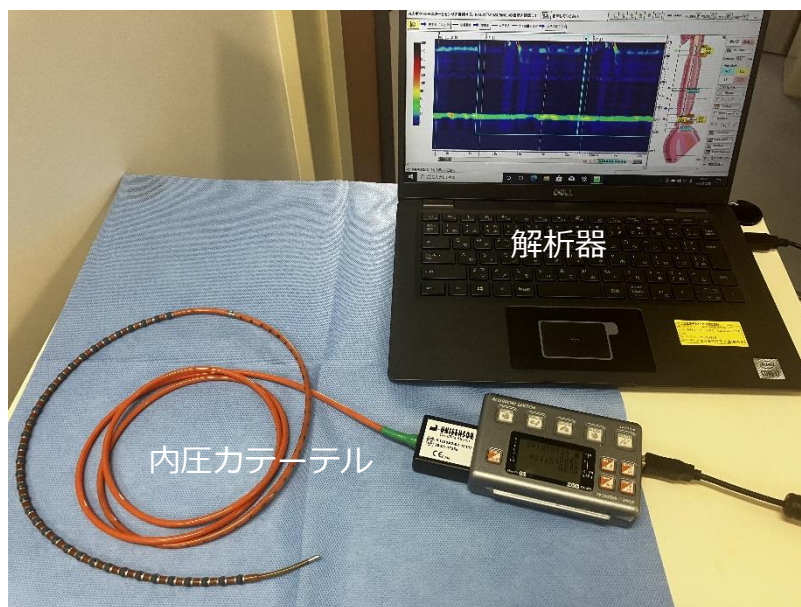
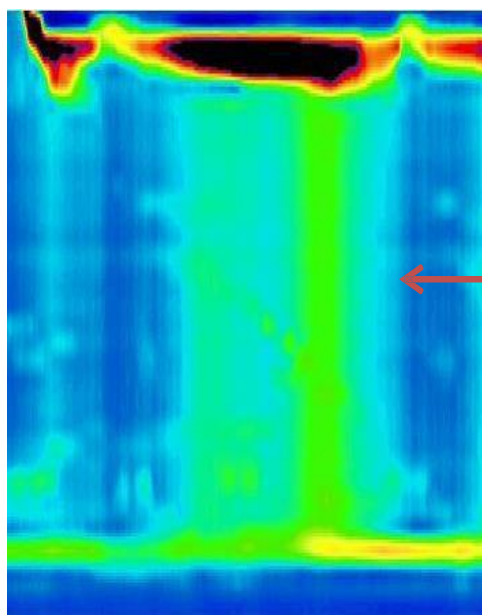
食道胃接合部の機能的狭窄



食道体部の異常収縮

③ 食道内圧測定

36個の圧力センサーが付いた細長いチューブ（内圧カテーテル）を鼻から通して食道・胃にかけて留置し食道の圧を測定します。狭窄部や食道全体の圧が上昇していること、食道の正常な蠕動が消失していることなどがわかります。この検査は食道アカラシアの確定診断に必要な検査です。



食道の異常な収縮運動

下部食道括約筋の弛緩不全

食道アカラシアの治療

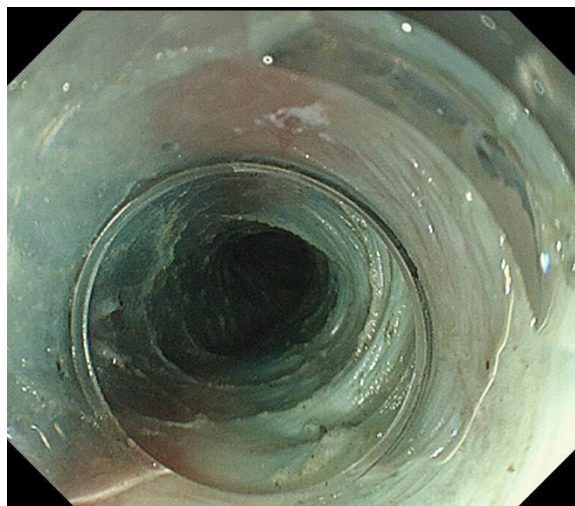
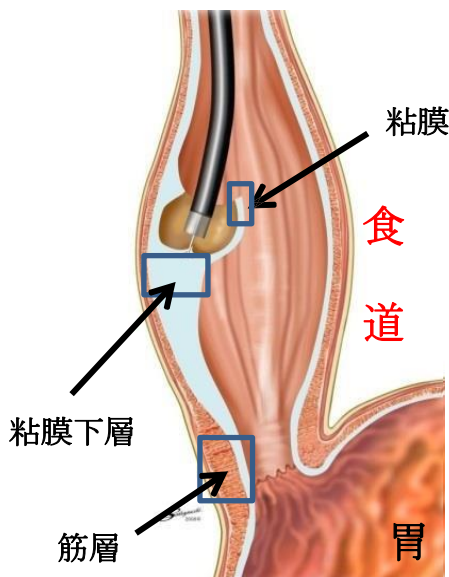
- * 薬物療法
- * バルーン拡張術
- * 手術療法（腹腔鏡）
- * 経口内視鏡的筋層切開術（Per-Oral Endoscopic Myotomy : POEM）

食道アカラシアに対する治療法として、薬物治療、ボツリヌス菌毒素局注療法（日本では保険未収載）、バルーン拡張術、手術（腹腔鏡手術）などがあり、これまでは、手術が、最も治療効果が高いとされてきました。しかしながら POEM という新しい低侵襲治療が、2008 年に井上晴洋医師ら（昭和大学江東豊洲病院 教授）により開発されました。POEM は内視鏡を用いた治療で体表に傷をつけず、前述の手術と同等以上の効果が期待できる治療法です。また既にバルーン拡張や手術が行われた患者さんに対しても、手技を行うことが可能です。この治療法は国内外で非常に高い満足度が得られていますが、近畿では POEM を行える施設は数施設しかありません。

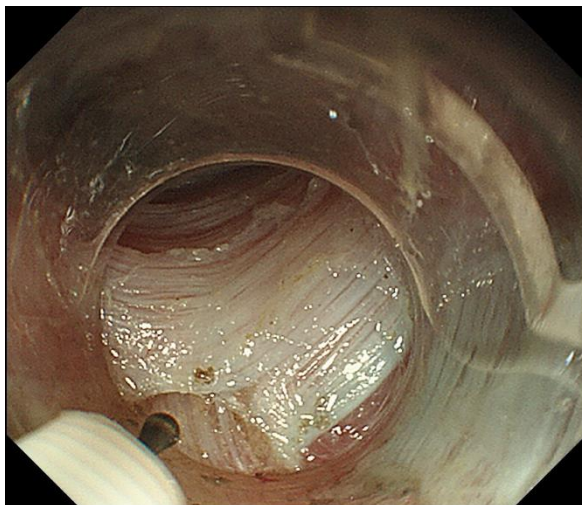
POEM の実際

1. 粘膜下層トンネルの作成

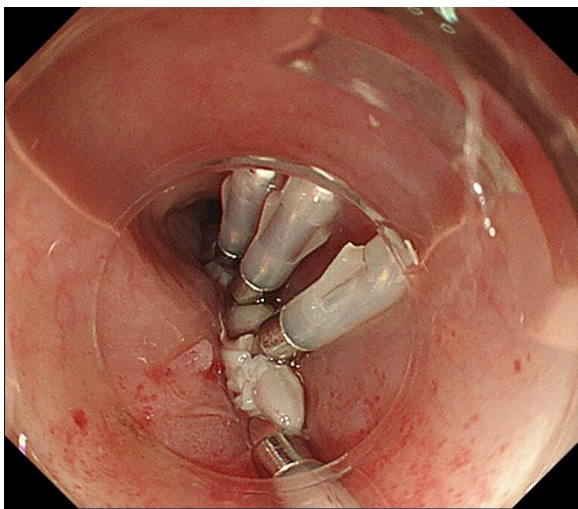
食道粘膜の下に水を入れて表層粘膜を浮き上がらせ、胃カメラが入るだけの穴を表層粘膜に開けます。カメラを粘膜の下（粘膜下層）に入れトンネルを胃側まで作っていきます。



2. トンネル作成後に筋層（内輪筋）を切開していきます。



3. 筋層切開終了後にカメラの入り口をクリップで閉鎖して終了します。



神戸大学での食道アカラシアの治療体制

神戸大学では、昭和大学の POEM チームで十分な研修を積んだのち、2015 年 4 月より POEM を行っております。また、食道アカラシアの方に対する診療環境を整えるため、食道アカラシア外来を開設し、専門的に診察する体制を整えています。現在のところ2023年3月末現在604例と、**国内2番目のPOEMの治療件数**を有します。また、食道アカラシアに発生した食道癌の内視鏡治療や高齢者・小児アカラシアなどの特殊な患者さんの診療も数多く行っております。アカラシアと思われる症状にお悩みの方は下記までご相談ください。

連絡先

TEL 078-382-6305

FAX 078-382-6309

神戸大学消化器内科 食道アカラシア 診療グループ

阿部洋文・阪口博哉・木下雅登

田中心和（当院非常勤講師・田中内科クリニック院長）

豊永高史

